



サリー大学で取れる助産コース

日方圭子

英国・サリー大学助産課程学生(ダイレクトエントリーコース)

私が専攻しているダイレクトエントリーのディプロマコース以外にも、この大学で助産師資格を取るためのコースが2つある。ダイレクトエントリーの「学士号(オナーズ)」コース、看護師資格を持った人対象の「短縮コース」である。

ダイレクトエントリー学士号(オナーズ)コース

オナーズはディプロマと同様、9月入学で、3年間理論と実習が半々のプログラムになる。高校を卒業していなくても入学できるディプロマに対して、オナーズは高校最終学年で受けるAレベル試験の理数系科目が2つ以上必要になるなど入学基準が高く、2つのコースの授業が重なることはほとんどない。

卒業と同時に与えられる助産婦資格は両コースとも同じもので、給料に差が出ることもないが、助産の仕事だけではなく、教鞭をとる、研究に携わるといった場合に、オナーズも必要になってくるらしい。

オナーズコースの2000年入学者は9人。40代1人以外は20代前半までと若い学生が勉強している。

ディプロマでも学士号が取れる

レベル1の5教科(本連載前号の表参照)のうち主要科目「助産実践開発」を含む4教科で60%以上の成績を取ったら、ディプロマコースでも学士号(オナーズの付かないもの)を取ることが可能だということが分かった。ただし、3年次に

レベル3の60単位を余計に取ることになるので、かなりの負担になる。

レベル3の教科は、「実践を通して学ぶ」が必修科目。以下、「妊娠・胎児・新生児期の痛みについて」「栄養と出産」「人工授精」「死別と喪失」「臨床監査と臨床能力」「多職種間の連携」の6科目から1つ選択になる。

ディプロマを取って卒業後、働きながら学士号(オナーズ)を取得することも可能で、そのためのパートタイムコースもある。必要単位を取るのに2年かかるが、現役助産婦がオフ日や自習の日を利用してキャンパスに集まってくるこのグループは、他のコースと比べて大人の雰囲気を持っている。

看護教育のあとの助産教育「短縮コース」

1992年にダイレクトエントリーが大学レベルで導入される前に主流だったのが、「看護教育+助産教育」で、看護師資格取得後に助産師資格を取る「短縮コース」。サリー大学では毎年2月入学で看護師資格保持者を対象に18か月の「学士号(オナーズ)短縮コース」を開いている。ダイレクトエントリーと同様フルタイムで、実習と大学での授業が半々だ。

このコースの学生はNHS(National Health Service)病院の看護スタッフとして登録され、その間給料が支給される。そのため募集人数はNHSの予算によって毎年異なり、2001年度は22人の枠に約50人が応募した。

担当の講師に話を聞くと、応募者の背景は様々で、特定のタイプはいないらしい。もともと助産婦希望の人が「ダイレクトエントリーは少人数で入学チャンスが限られているから」と、まず広く門戸が開かれている看護コース(3年)で看護師資格を取得してから「短縮コース」に入り直す場合や、看護学生時代の産科での実習経験から助産婦になろうと決意した人などがある。

「短縮コース」で助産婦資格を取った先輩助産婦の1人は、「3年かけて助産を勉強するダイレクトエントリーと比べて、18か月コースは短期間にすべて詰まっていて大変！いくら看護の知識があっても、助産の知識はそれまでほとんどないわけだからね」と言っていた。

辞めないで

勉強と生活のバランスを取って3年間学生を続けることは、特に家族のいる学生には大変なことである。子供のいる同級生たちは家族の助けで今のところなんとか乗り切っているようだけれど、やはり時々、子どもの学校へ行ったり病院へ連れて行ったりで、遅刻や欠席をするのは避けられない様子。

でも、そんな学生たちにたくさん接しているから、講師陣は理解がある。オリエンテーションが始まったばかりの頃に励まされた。「諦めないで、まず担任に相談して下さい。取った単位は残しておけるから。両立が大変になったら休学して、問題が解決したら大学に戻って、残りの単位から勉強を続けることもできるから。妊娠しても大丈夫。辞めることは考えないで、続けるよう努力して」と。

実際、来年になったら、産休＋育休で大学を離れている学生が1人、コースに戻ってくる予定だという。助産コースはこのように、卒業前も卒業後も、かなり柔軟に勉強を続けやすくできている。

看護コースの1年生にこの話をしたら、看護学生はオリエンテーションで「妊娠しないように」



大学の実習室で腕のモデルを使って採血の練習。

と注意されたと言っていた……。

カリキュラムはどんどん変わる

同コース内の先輩と話していると、学年によってカリキュラムが変わっていたり、教科の呼び名も違っていたりすることに気づく。それだけカリキュラムの見直しは頻繁に行なわれるようだ。

2000年入学組の担任が、来年のカリキュラムを組んでいる最中だと教えてくれた。今年の反省を踏まえて、大幅な改正があるらしい。現場の雰囲気をつかめるように、入学直後に短期の実習が組まれる計画。「来年入学すればよかったかな」と、クラスメートの声が聞こえる。でも、在学生や卒業生の意見を入れて、私の学年のカリキュラムも改訂版のはず。

例えば「専門技術・基礎」は、「実習が足りなくて、理論でやったことが身につかない」と今の2年生が意見してくれたおかげで、私たちのグループの授業には実習がかなり多く取り入れられている。

実習は地下の実習室がよく使われる。病院と同じ環境で練習ができるように様々な医療器具がそろっていて、空いていれば時間外でも学生が練習に使うこともできるし、持ち運びできる大きさの備品なら貸し出しも可。例えば骨盤と胎児の頭蓋の実物大模型を家に持って帰って練習することもできる。